

グレープフルーツと薬剤



NO、56

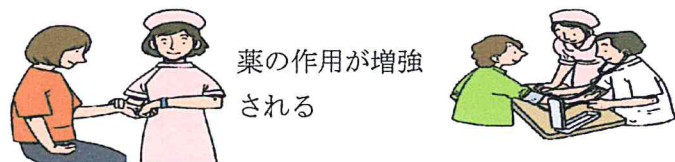
グレープフルーツの苦味のもとである**フラボノイド**には、ある種の薬が肝臓で分解されるのを阻害する作用があります。そのため薬物の**血中濃度が上昇**し薬の作用が強くなります。副作用として**血圧の下がり過ぎ**によるふらつきが出たり、血管拡張作用が強くと**顔が紅潮、心拍数の増加、頭痛、めまい、頻尿**などの症状が現れることがあります。

- グレープフルーツは薬の効きめを**20倍**も強めることがあり、命を脅かす事故も起こっています。
- 薬に対する作用には個人差がありますが、**服用前後**にグレープフルーツを食べると、グレープフルーツによる影響持続時間は**24時間以上**も続くと言われています。(夏ミカンやポンタン、ザボンも気をつけましょう。**オレンジはOK**です)
- どんなお薬でも**グレープフルーツジュースで同時服用**しないようにしましょう。



グレープフルーツと薬物の副作用

グレープフルーツジュースと同時に服用すると**血中濃度が上昇する薬剤**



- **カルシウム拮抗(きっこう)剤**とよばれる血管拡張剤 (高血圧や狭心症などの治療薬です) (グレープフルーツジュースとカルシウム拮抗剤の相互作用の強さ)

相互作用の強さ	一般名	商品名	
極めて強い	ニソルジピン フェロジピン アゼルニジピン	バイミカード スプレンジール カルブロック	同時服用しないこと
強い	シルニジピン ニカルジピン ニトレンジピン ニフェジピン ベニジピン マニジピン	アテレック ベルジピン バイロテンジン アダラート コニール カルスロッド	
やや強い	エホニジピン ベラパミル	ランデル ワソラン	
弱い	アムロジピン ジルチアゼム	アムロジン ノルバスク ヘルベッサー	影響なし
不明	アラニジン ニルバジピン バルニジピン	サプレスタ ニバジール ヒポカ	不明

■ 高脂血症治療剤(スタチン系 CYP3A4)

グレープフルーツジュースを多量に摂取するとリピトールは2.5倍、リポバス 16 倍、血中濃度が上昇するとの報告があります。(リバロやメバロチン、クレトールはグレープフルーツとの相互作用はみられなかったと報告されています)

- 抗精神作用性てんかん・うつ
テグ レトール
- 催眠鎮静剤
トリアゾラム
- 抗アレルギー剤
トリルダン
- 免疫抑制剤
サンディミュ、ネオーラル



■ グレープフルーツの作用

本来グレープフルーツの中に含まれている**フラボノイド**には**LDL(悪玉)**コレステロールの酸化を抑制する作用や**血小板凝集**を抑制する作用があることから動脈硬化や血栓形成予防に良い果物であることが解っています。
しかし、グレープフルーツと薬剤の相互作用は時として思わぬ相互作用の原因になりかねませんのでご注意ください。

